



第568号

令和6年7月1日

公益財団法人 千鳥ヶ淵 戦没者墓苑奉仕会
〒102-0075 千代田区三番町2
電話 03 (3261) 6700
FAX 03 (3261) 6712



http://www.boen.or.jp
郵便振替口座 00140-2-42556

編集人 中村 勤
発行人 杉本 順則



墓苑の花「紫蘭」

花言葉

「あなたを忘れない」

(関連記事 6面)

遺骨収集事業に取り組むとともに、DNA鑑定による身元の特定を進め、できる限り多くの御遺骨を御遺族の元にお返ししてまいります。本年は、現在までに御遺族の元にお返しできていない、硫黄島、マリアナ諸島、ロシア等で収容した三百一柱の御遺骨を新たに納めます。これにより、千鳥ヶ淵戦没者墓苑の御遺骨は、三十七万七百柱を数えることとなります。

くしてまいります。この式典に当たり、改めて、先の大戦の多くの教訓と記憶を深く心に刻むことの重要性を感じております。戦中・戦後の労苦を体験された方が少なくなる中でも、しっかりと次の世代に教訓や記憶を語り継ぎ、世界の恒久平和と繁栄に、能う限り貢献していくことをお誓い申し上げます。終わりに、戦没者の御霊の安らかならんことを、そして、御遺族の皆様のご平安を切に祈念し、また御参列の皆様にご感謝申し上げます。
令和6年5月27日
厚生労働大臣 武見敬三



令和6年度千鳥ヶ淵戦没者墓苑拝礼式 新たに301柱を納骨



納骨の儀でご遺骨を奉持する武見厚生労働大臣

令和6年度厚生労働省主催の千鳥ヶ淵戦没者墓苑拝礼式が5月27日、秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、こ千鳥ヶ淵戦没者墓苑にて厳かに執り行われた。

墓苑六角堂内の墓前には天皇皇后両陛下下賜の大花籠が左右に2基飾られ、遺族184名並びに、内閣総理大臣及び衆議院議長をはじめ、関係各省大臣、参議院厚生労働委員長、国会議員、各政党代表、駐日関係各国大使、関係団体代表、遺骨帰還事業協力者等の来賓218名の計402名が参列した。

式典は定刻午後零時三十分、秋篠宮皇嗣同妃両殿下が御入場され開始された。皇宮警察音楽隊の演奏に合わせて参列者全員の国歌「君が代」斉唱に始まり、武見厚生労働大臣の式辞、引き続き、納骨の儀が執り行なわれ、厚生労働大臣が社会・援護局長から手渡された御遺骨を奉持して六角堂内の納骨室に収めた。

今回納骨された御遺骨は硫黄島、マリアナ諸島、ロシア等において収容した戦没者の御遺骨のうち、御遺族に引き渡すことができない301柱が墓苑に納骨された。今回の納骨により墓苑には累計370、700柱の御遺骨が奉安されたことになる。

式典は納骨の儀の後、参列者全員が起立するなか秋篠宮皇嗣同妃両殿下が墓前に進まれ御拝礼された。両殿下の御拝礼に合わせて参列者一同が拝礼し、戦没者の御冥福をお祈りした。御拝礼の後、秋篠宮皇嗣同妃両殿下は参列者一同がお見送りするなか御退席さ

れた。その後、内閣官房長官(内閣総理大臣代理)を始めとして、日本遺族会会長、都道府県遺族代表、駐日関係各国大使、衆議院議長、参議院厚生労働委員長、外務副大臣(同大臣代理)、環境大臣、防衛大臣政務官(同大臣代理)、各政党代表、全国知事会事務総長(同会長代理)、日本戦没者遺骨収集推進協会会長、千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会副会長(同会長代理)がそれぞれ献花を行い、そして最後に厚生労働大臣が献花した。そのあと参列者全員の参拝が行われ令和6年度拝礼式は午後一時滞りなく終了した。

千鳥ヶ淵戦没者墓苑拝礼式 武見厚生労働大臣式辞

本日ここに、秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席のもと、戦没者御遺族及び来賓各位の御参列を得て、千鳥ヶ淵戦没者墓苑拝礼式を挙げるに当たり、一言御挨拶申し上げます。

苛烈を極めた先の大戦において、数多くの方々が生霊を思い、愛する家族を案じながら、戦場に斃れ、あるいは戦後、遠い異郷の地で命を落とされました。今日の我が国の平和と繁栄が、戦没者の皆様の尊い命と、苦難の歴史の上に築かれたものであることに深く思いを致し、謹んで哀悼の誠を捧げます。
政府においては、昭和二十七年以来、



御拝礼を終えられた秋篠宮皇嗣同妃両殿下

遺骨収集の集中実施期間が令和十一年度まで延長された趣旨も踏まえ、引き続き、諸外国の関係者の方々や、外務省、防衛省等の関係省庁、日本戦没者遺骨収集推進協会をはじめとした多くの皆様の一層の御協力をいただきながら、一柱でも多くの御遺骨が、一日も早くふるさとに戻られるよう、全力を尽



額賀衆議院議長



水落日本遺族会会長



林内閣官房長官

米インド太平洋軍司令官

アクイリノ海軍大将

千鳥ヶ淵戦没者墓苑へ初の参拝・献花

米インド太平洋軍司令官アクイリノ海軍大将が4月22日、ここ千鳥ヶ淵戦没者墓苑を公式参拝した。米インド太平洋軍司令官による当墓苑への初の参拝となった。司令官には在日米国大使館付武官をはじめ25名の軍関係者が随行していた。奉仕会理事長の出迎えを受け、司令官は、「37万余の戦没者が眠る千鳥ヶ淵戦没者墓苑を訪ねることができ、米インド太平洋軍を代表して英霊に対し心からの哀悼の意を表する」と述べた。

引き続き、榊枝理事長の案内で戦没者数一覧表(石板)の前で概要の説明を受けた。司令官からは最も多くの戦死者を出した戦域はどこかとの質問があり、フィリピン52万人、中国本土46万人、ニューギニア・ソロモン24万人との回答に深く頷いた。

前屋で記帳を行い、墓前へと進み、白色の大きなリースを墓前正面の台に厳かに手向け、深々と頭を下げ、改めて正面の陶棺に正対して挙手の敬礼をもって戦没者の御霊に敬意を表した。

献花終了後、司令官は陶棺についても質問し、「海外の6個戦域から持ち寄った砂・砂利を1700℃の高熱で焼き上



到着した司令官

げた重さ5トンの世界最大級の陶棺で、その中に昭和天皇からの下賜された金銅製の納骨壺が収められており、また陶棺の後方には地下3階の納骨室があり、戦域ごとに引き取り手のない御遺骨を奉安している」との説明も傾けられていた。

同司令官は離苑に際し、無名戦士の墓に眠る英霊はどの国においても最も敬意を表されるべきであり、ここに眠る37万の御霊に対し、インド太平洋軍の司令官として衷心から再度哀悼の意を表わすとともに敬意を表すると述べた。日米の防衛協力が高まる最中、司令官の千鳥ヶ淵戦没者墓苑参拝が、日米両国にとって大きな礎となることを期待したい。



奉仕会理事長から説明を受ける司令官



改めて挙手の敬礼をする司令官

令和6年度 日本国練習艦隊実習 幹部による参拝・献花

5月10日、令和6年度日本国練習艦隊司令官・西山高広海将補以下実習幹部192名(うち女性28名)が儀仗隊・ラッパ隊を伴い千鳥ヶ淵戦没者墓苑を参拝・献花した。

同部隊は冬制服の礼装で威儀をただし墓前に整列、西山司令官が墓前に花輪を捧げ、これに合わせてラッパ吹奏のもと参列者全員が拝礼、黙祷を行い、先の大戦で亡くなった英霊に哀悼の誠を捧げるとともに、これからの遠洋練習航海での任務完遂と無事の帰還を祈った。

実習幹部は、練習艦「かしま」(艦長 1等海佐 坂井 喜一郎)及び練習艦「しまかぜ」(艦長 2等海佐 梶山 剛)の2隻に分かれ乗艦し、5月20日に晴海を出港、175日間の練習航海を経て本年11月11日に晴海に帰国予定である。

寄港予定国(寄港地)は、世界一周(西回り)のコースでブルネイ・ダルサラーム国(ムアラ)、セーシェル共和国(ビクトリア)、南アフリカ共和国(ケープタウン)、セネガル共和国(ダカール)、イタリア共和国(ナポリ)、トルコ共和国(イスタンブール)、スペイン王国(バレンシア)、ドイツ連邦共和国(ハンブルク)、英国(ロンドン及びサウザンプトン)、アメリカ合衆国(フーフォーク及びハワイ)、メキシコ合衆国(アカプルコ、その総航程は約65,000kmとなる)。

海上自衛隊の遠洋練習航海は、海上自衛隊幹部候補生学校の一般幹部候補生課程を卒業した実習幹部に対し、長期にわたる洋上生活、各種訓練等を通じて、部隊勤務に必要な基礎的知識・技能及び指揮統率の基本を体得させ、また共同訓練等を通じて国際感覚を醸成させることにより、伸展性を有する初級幹部を育成するとともに訪問国との友好親善の増進を図っている。昭和32年以降、毎年遠洋練習航海を実施しており、今回で68回目となる。



司令官が献花した花輪



墓前に整列する儀仗隊及び実習幹部



黙祷する司令官一行

韓国の国立大田顕忠院を訪問して

伊集院 兼一

令和6年5月8日、韓国に駐在経験のある元防衛駐在官及び留学生で構成される韓友会の一員として、韓国の国立大田顕忠院を訪問し、顕忠院への献花と朝鮮戦争における護国の英雄で日韓の防衛交流に尽力された故白善燁將軍(注)の墓参を行った。そこで今回は日本ではあまり知られていない韓国国立大田顕忠院について紹介する。

国立大田顕忠院(大田広域市儒城区甲洞)は、ソウル国立顕忠院の埋葬スペースが限界を迎えたことから、2番目の国立墓地として1985年に竣工した。祖国守護と国家繁栄のため尊い命を国に捧げた殉国烈士や護国英霊が眠る民族の聖地であり、敷地面積は322万2001平方メートル(東京ドーム64個)を誇り、墓域には14万人以上の国家功労者、軍人及び警察官等が眠る墓が整備されている。

今回、大田顕忠院を訪問して2つのことが強く印象に残った。1つ目は、韓国では約320万㎡の広大な敷地の墓地が「国立墓地設置運営法」により国家の責任において維持・運営されており、一方、我が国では旧陸海軍が所管していた陸海軍墓地が市町村や遺族会等にその運営等が任されている点に差異を強く感じた。



顕忠碑



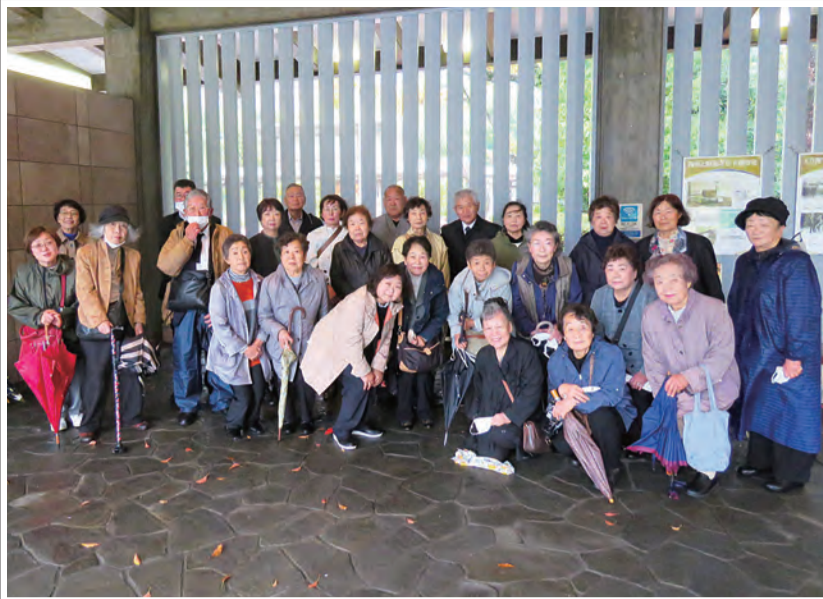
広大な兵士墓地



献花する韓友会会員

2つ目は、大田顕忠院には告別式や護国映画上映に使用される顕忠館のほかにも、さまざまな写真と遺品を展示する護国館、戦闘装備などが展示してある野外展示場などが併設され、国家の苦難の歴史を教育する施設としても利用されていることである。それぞれの国の歴史的背景や国防意識の違いから同一に比べることはできないが、日本における国立墓地等の設置や運営の参考になれば幸甚である。(筆者は元陸上自衛官で韓国陸軍大学第2代留学生として1993年から約1年間、韓国で勤務)

注：白善燁將軍
陸軍参謀総長・駐仏大使・交通大臣を歴任、1995年日本国勲一等瑞宝章を受章



千葉県四街道市遺族会 (6.4.9)



千葉県市原市遺族会五井支部 (6.4.1)



龍雲寺法要 (6.4.10)



埼玉県秩父市遺族会 (6.4.9)

各団体の慰霊参拝



レイテの兄弟の会 (6.4.18)



トイレ清掃奉仕 (6.4.13)



長福寺法要 (6.4.26)



阿含宗清掃奉仕 (6.4.21)



千代田区海洋少年団 (千鳥ヶ淵ボート場) (6.5.11)



厚生労働省新任職員研修団 (6.4.26)



栃木県小山市間々田地区遺族会 (6.5.15)



喇叭保存会 (6.5.12)

各団体の慰霊参拝



千鳥ヶ淵戦没者墓苑清掃奉仕会 (6.5.18)



立正佼成会千代田中央教会 (6.5.19)



水交会 (6.5.16)

法華宗(本門流) 宗務院 戦没者慰霊法要

4月11日、法華宗の僧侶及び檀信徒の約50名が参列し、法華宗(本門流)宗務院主催の戦没者慰霊法要が当墓苑で執り行われた。

墓前の祭壇には諸天善神のお名前が記された曼荼羅の本尊が祀られ、一同が南無妙法蓮華経を唱題する中、導師の金井総長が入場、着座し法要が開始された。法要は、勧請、方便品、自我偈などと経文が続き、最後に金井総長が「我が国は今年も平和で素晴らしい桜の花の季節を迎えたが、世界に目を転ずれば、ロシアによるウクライナ侵略や中東での紛争などが継続し、未だ全世界に平和が訪れていない。ここに眠る英霊が礎となったお陰で日本は80年近く紛争に巻き込まれることなく、平和と繁栄を享受している。来年こそは世界中が平和となることを切に祈る」と述べた。

世界平和の重要性を説きつつ、ここ千鳥ヶ淵戦没者墓苑に眠る英霊に対する追悼慰霊の誠を捧げる厳粛な法要であった。本法要は、平成5年、当時の川口善教宗務総長が全国の宗門の僧侶、檀信徒に呼び掛けて第1回の戦没者法要が行われて以来、コロナ禍の令和2年を除き毎年続けられている。



墓前に設けられた祭壇



僧侶及び檀信徒による法要

【私たちが思う戦没者慰霊について⑤】 沖繩の都道府県慰霊碑を知って 匿名希望

私は、高校の修学旅行で沖繩の嘉数高台公園を訪れる機会があった。嘉数は沖繩戦でも屈指の激戦地となり、兵士や住人など多くの方々が命を落とした場所だ。戦闘に用いられたトーチカや塹壕に残った無数の弾痕など、当時の傷跡が生々しく残っていた。その嘉数の公園には、「嘉数の塔」と「京都の塔」という慰霊碑が建立されていた。「嘉数の塔」は沖繩戦の戦火に巻き込まれ命を落とした住民の慰霊碑である。「京都の塔」は沖繩戦で亡くなった京都府出身の英霊を慰霊するために建立されたものだ。

沖繩にはこのように、各都道府県出身の戦没者の慰霊のための塔が数多く建立されている。私は、北海道出身なのだ。戦火に散っていった北海道の英霊の慰霊塔の存在を知らなかった。嘉数の「京都の塔」を見て初めて知った。北海道の慰霊碑「北霊碑」(参考は糸満市ひめゆりの塔の近くにある平和創造の森の東側に建立されている。「北霊碑」には、沖繩戦で北海道出身の将兵1万名以上が散っていったと記録されている。これは、沖繩を除いた都道府県の中で最も多い

戦没者数だという。沖繩だけでなく、大陸や南の島々、海上で多くの人が日本、そしてふるさとである北の大地を守るために亡くなった。

各都道府県民は、故郷から遠い沖繩や南方戦線に散っていった同郷の先人たちの慰霊塔の存在を知っているのだろうか。平和祈念公園やひめゆりの塔などは知っていても、多くの人は都道府県ごとの慰霊塔を知らないかもしれない。だから、一人でも多くの人に知ってほしいのだ。今の沖繩は観光地であり、多くの人が訪れる。だからこそ、このような慰霊塔の存在を知って、沖繩を訪れたときには故郷の先人たちに祈りを捧げてほしいのだ。自分の出身地や地元の慰霊碑はある意味で身近な存在であり、多くの人にとって戦没者慰霊に関心を持つきっかけになり得ると感じている。

日本には、「お天道様が見ている」という言葉がある。私は、自分や人びとのことを見ているのはお天道様、つまり太陽だけではないと考えている。私はこの国の発展の礎となった英霊たちも、今の日本人の姿を見ていると思うのだ。そのことを意識していれば、日本人として、人間として恥ずかしい行動などできないだろう。現在の日本は、人の道を外れているかのような行いをする者、無気力で自国に対して無関心な者が増えてきていると感じる。沖繩の慰霊碑をきっかけに戦没者慰霊へと関心を持ち、この国を護った英霊のことを忘れずに過ごすことで、日本人はもっと善い人間になれるのではないだろうか。

私も次に沖繩を訪れたときは、自らと同じ故郷を持つ英霊の為に祈りを捧げたい。そして、感謝を忘れずに、日本人として、北海道出身者として、故郷を護るために散っていった先人たちに恥ずかしくないよう、立派に生きていきたいものだ。

(投稿時 麗澤大学 4年)



北霊碑(沖繩県営平和祈念公園)

※参考:「北霊碑」(沖繩県営平和祈念公園HPから原文のまま引用)

●所在地:沖繩県糸満市米須、●建立年月日:昭和29年4月(昭和47年10月と平成8年11月に改修)、●敷地面積:640平方メートル、●合祀者数:40、850柱(沖繩戦戦没者10、850柱、南方諸地域戦没者30、000柱)、●管理団体:(一財)北海道連合遺族会《建立の経緯》碑文から

●参拝団体(前項以外、敬称略、順不同) 四街道市遺族会、福井県遺族連合会、龍雲寺、長福寺、海自遠洋練習航海部隊厚労省新人研修、喇叭伝承会、喇叭保存会、千代田区海洋少年団

●清掃奉仕(敬称略、順不同) 阿含宗清掃奉仕、千鳥ヶ淵戦没者墓苑清掃奉仕会、立正佼成会千代田中央教会清掃奉仕

●前屋敷花奉仕者(敬称略、順不同) 古流わかば会(武藤理春、武藤理高、武藤理恵、秋葉理恵、金澤理代、丸山理寛) 古流茂風会(大藤茂風、山田和風、田巻泰風、渡辺圭風)、国際華道如心流(新井礼心、片桐喜心、吉見恵峯、鈴木淑峯、草翠流(池田恵美子、関口知子、関根和広、徳竹草華)、松葉流古流(田中一秀、田中一桜、木村一恵、渡来一靖)、美風池坊(小島美陽、清水花坊、近藤美敬、西田栄舟、坂口栄宝)、古流松海会(高梨理園、太田理芳、高橋理厚、山田理創、井内理琴、青柿理恵)、駿東流(小泉恵華、御園奈美江)

令和6年5月31日まで受付分を掲載、6月1日以降受付分は次号に掲載します。

昭和47年5月15日

振込票記載内容の一部誤りのお詫び

今年度本紙5月号に年会費の振込票を同封させて頂きましたが、一部の会員の方には過去の入金状況に誤りがあり大変不快な思いをおかけして、真に申し訳ございませんでした。

既にお詫びと訂正の御連絡をさせて頂きましたが、今後、この種誤りがないように十分留意させて頂きますので、ご理解の程宜しくお願い申し上げます。

奉仕会年度会費納入者(団体・個人)(敬称略、順不同)

全国強制抑留者協会、山口格夫、大森昭彦、原嶋宏文、高荷義隆、豊田陽津田、章、合原佳雄、吉田博光、野澤直己、二宮類四郎、平田弘幸、山田フヨ室伏孝一、柴田誠悦、熊田しげ子、勝呂洋次、渡辺一陽、金子由成、麓川昭憲今井敏夫、並木桂子、布施木 昭、矢嶋正久、小林まゆ、藤木俊一、勝美、黒岩しま、本田恒雄、高梨節夫、後藤国夫、小沼芳子、坂田鎮蔵、富田武司、高梨直辰落合健次、龜山恒夫、龜山和子、岩田司朗、曳田圭子、小林孝太郎、高梨実村田 陽、荒井紀子、國澤輝生、御園生和彦、緒方定憲、勝見登志子、齊藤準堤 将純、荒井 茂、田中隆太郎、坂田七郎、中村妙子、増田健三、菊地運一鈴木健一、長谷部文雄、藤田憲二、田杭史好、竹村五夫、吉里年和、渡邊守久土師野良明、杉浦涼子、加藤園栄、秋葉正男、西口邦左、高崎俊光、松本加代子

新入会員(敬称略、順不同) ※正は正会員、終は終身会員

小林一朗(正)、中村賢人(終)、平野伸吾(正)、山岸正昭(正)、平川和子(終)上月良祐(終)、石川公也(終)、村山かおり(正・終)、小林弘子(正)、本城典之(正)

●奉納、参拝団体・参拝者(敬称略、順不同) クラスノヤルスク遺族会、レイテの兄弟の会、栃木県小山市間々田地区遺族会秩父市遺族連合会、大磯町遺族会、普明会教団、法華宗(本門流)宗務院、水交会奉仕茶会、千代田区三番町会、山本智公、成瀬満由未、平川和子、向井正興、廣川貞雄、廣川剛秀、酒井治雄、鈴木雄一朗、秀平良子、柴田米實、遠藤政博

●参拝団体(前項以外、敬称略、順不同) 四街道市遺族会、福井県遺族連合会、龍雲寺、長福寺、海自遠洋練習航海部隊厚労省新人研修、喇叭伝承会、喇叭保存会、千代田区海洋少年団

●清掃奉仕(敬称略、順不同) 阿含宗清掃奉仕、千鳥ヶ淵戦没者墓苑清掃奉仕会、立正佼成会千代田中央教会清掃奉仕

●前屋敷花奉仕者(敬称略、順不同) 古流わかば会(武藤理春、武藤理高、武藤理恵、秋葉理恵、金澤理代、丸山理寛) 古流茂風会(大藤茂風、山田和風、田巻泰風、渡辺圭風)、国際華道如心流(新井礼心、片桐喜心、吉見恵峯、鈴木淑峯、草翠流(池田恵美子、関口知子、関根和広、徳竹草華)、松葉流古流(田中一秀、田中一桜、木村一恵、渡来一靖)、美風池坊(小島美陽、清水花坊、近藤美敬、西田栄舟、坂口栄宝)、古流松海会(高梨理園、太田理芳、高橋理厚、山田理創、井内理琴、青柿理恵)、駿東流(小泉恵華、御園奈美江)

住所・氏名の変更通知のお願い

団体の代表の方で、特に宛先が御自宅の方は、代表者の交代時には新代表者の住所・氏名を奉仕会まで御一報ください。新住所が不明な場合は送付できませんので、お手数ですが宜しく願います。 ※個人の住所変更も同様に御一報ください。

「あなたを忘れない」、墓苑に咲く紫蘭(しらん)
 (関連イラスト1画)

千鳥ヶ淵緑道の桜の花が散り終わると可憐な紫色の花を咲かせる紫蘭が墓苑の休憩所前の「さざれ石」の脇に姿を見せてくれる。

紫蘭の花は六角堂に向かって頭を垂れて咲く。さらに、その花言葉は「あなたを忘れない」である。37万余の英霊が眠るここ千鳥ヶ淵戦没者墓苑にふさわしい花だ。

紫蘭は日本や中国が原産の球根植物で、ラン科のなかでも乾燥に強く丈夫な品種のため「入門用の蘭」としても親しまれておりガーデニングの初心者にも人気がある。

5月〜6月にかけて、細長い花びらを5枚つけた星のような形の花を咲かせるのが特徴である。

終戦80年事業のお知らせとお願い

来る令和7年、終戦80年の大きな節目を迎えるにあたり、奉仕会は創設の原点に立ち返り、戦没者の慰霊奉賛の気運が更に昂揚されるとともにこの灯火が末永く国民全般、特に若い世代に継承されることを念願して次の事業を令和6年度から計画しております。

- 「戦没者慰霊のあり方(慰霊の継承)」をテーマに懸賞小論文(投稿文)を広く募集
 - 内容: 年配者はいかに慰霊を若い人に伝えるか、若い人はそれをどのように受け止めるべきかなど。
 - 規定: メールまたは郵送で応募(努めてデータで)。字数は1200~2000字。(手書きの場合、400字詰原稿用紙使用、ただし鉛筆不可)ワード、A-4、横書き。表紙に氏名(ふりがな)、年齢、〒住所、電話番号、メールアドレス、職業を明記。応募された原稿等は返却しません。また、著作権、編集権は当奉仕会に帰属し、二重投稿は不可。
 - 資格: 不問
 - 賞: 最優秀7万円×1点、優秀5万円×2点、佳作3万円×3点(予定)
 - 審査: 千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会
 - 応募先: 〒102-0075 東京都千代田区三番町二
公益財団法人 千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会
メールアドレス: c-houshikai@boen.or.jp
 - 応募期間: 令和6年7月から令和7年1月末日まで
 - 問合せ先: メールアドレス c-houshikai@boen.or.jp
 - 発表: 最優秀、優秀及び佳作を広報紙「千鳥ヶ淵」8月号(終戦80年特集号)に掲載予定
 - 季刊「公募ガイド」(7月9日発刊)にも応募要項を掲載
 - WEB「Koubo」
<https://koubo.jp/>
 - 千鳥ヶ淵戦没者墓苑のリニューアル(施設・設備等)等のための募金
 - 一口: 個人5千円、団体3万円
 - 期間: 令和6年7月1日から令和7年12月末日まで
 - 振込口座: 郵便為替口座番号 02東京00140-2-42556
 - 終戦80年募金と明記して下さい
- 以上、皆様のご協力を切にお願い致します。
- 公益財団法人 千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会
理事長 榊枝 宗男

来年は桜のあともしもせむ墓苑を訪れ、花言葉とともに紫蘭の花も愛でて頂きたい。

墓苑便り(奉仕会だより)

7月の献花の予定

柴山古流・縁山流 沼田 冷笑
遠州流一森会 名鏡 一玲



さざれ石と紫蘭

都古流一孝会 内田 一孝

お知らせ

千鳥ヶ淵戦没者墓苑秋季慰霊祭の参列を希望される会員の皆様へ

※10月18日秋季慰霊祭に参列を希望される会員の皆様へ

会員の皆様には昨年、秋季慰霊祭の案内ハガキを送付させて頂きました。が、本年は参列規模拡大に伴う円滑な受付業務のため、参列を希望される方は往復ハガキにて左記の要領により申し込み頂きたく存じます。

返信ハガキには受付番号を記載して返送いたします。当日、ご携行ください。

往復ハガキに、氏名(ふりがな)、同伴者がある場合は同伴者氏名(ふりがな)(3名以内)と各人毎の連絡先(郵便番号、住所及び電話番号)を明記の上、8月1日から9月17日(必着)までの間に奉仕会宛に申し込み下さい。なお、応募総数が100名を超える場合は抽選によります。

宝くじは、みんなの暮らしに役立っています。

集会用テント

一輪車

宝くじ桜

子宮がん検診車

「健康手帳」(冊子)

救急普及啓発広報車

宝くじドリームジャンボ絵本

ベンチ

リスザル展示施設

宝くじ

宝くじは、少子高齢化対策、災害対策、公園整備、教育及び社会福祉施設の建設改修などに使われています。

この刊行物は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。